

2023年6月30日

暮らし向きや消費に関する調査について

株式会社 鹿児島銀行

株式会社 九州経済研究所

[調査の概要]	
調査目的	県民の暮らし向きや収入、支出動向を調査し、消費の現状を把握するとともに、今後の消費がどのように変化していくか見通しを示し、卸・小売事業者などの事業活動に利用してもらうことを目的とする。
調査時期	2023年6月上旬
調査方法 ^注	南日本新聞社の「みなみパス会員」による「みなみアンケート」(インターネット調査)にて実施
回答数	有効回答数 600人
回答者属性	【性別】 男性 41.0% 女性 58.7% 不明 0.3% 【年齢別】 10代 0.3% 20代 3.5% 30代 16.7% 40代 20.7% 50代 29.2% 60代 23.8% 70代以上 5.8% 【地域別】 鹿児島地区 45.5% 南薩地区 10.2% 北薩地区 10.7% 始良・伊佐地区 19.8% 大隅地区 10.5% 熊毛・大島地区 3.3%

用語 D. I. = 「良い(良くなる)」- 「悪い(悪くなる)」、「増えた(増える)」- 「減った(減る)」、いずれも回答割合

^注 2021年調査までは鹿児島銀行の県内本支店窓口来店者を対象に聞き取り調査を実施。前回調査(2022年)から南日本新聞社の「みなみパス会員」による「みなみアンケート」で実施。

【調査結果のポイント】

- 現在の暮らし向きについては「普通」が 49.7%と最も多く、次に「悪い」(37.2%)、「良い」(13.2%)の順となり、D.I.は▲24.0となった。一方、今後の暮らし向きについては、「悪くなる」が 44.8%で最多となり、以下「変わらない」(42.3%)、「良くなる」(12.8%)の順で、D.I.は▲32.0だった。
- 将来の不安要素については、「物価上昇」が 64.3%と最も高く、「収入面」(64.2%)、「税金・社会保障の負担増」(58.2%)が続いた。
- 1年前と比較した収入については、「変わらない」が 42.7%と最も多く、次に「減った」(35.3%)、「増えた」(22.0%)の順となり、D.I.は▲13.3となった。一方、1年前と比較した支出については、「増えた」が 72.0%と最も多く、次に「変わらない」(18.3%)、「減った」(9.7%)の順となり、D.I.は 62.3となった。

(1) 現在の暮らし向き

現在の暮らし向きについては「普通」が 49.7%と最も多く、次に「悪い」(「悪い」と「どちらかという悪い」の合計) 37.2%、「良い」(「良い」と「どちらかという良い」の合計) 13.2%の順となった(図表 1)。その結果 D.I.は▲24.0となり、前回調査(2022年6月)から 7.2ポイント悪化した。

D.I.を男女別にみると女性より男性のほうが低く、年代別にみると 40代以上で大幅なマイナスとなった(図表 2)。

(2) 今後の暮らし向き

今後の暮らし向きについては「悪くなる」(「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計)が 44.8%と最も多く、次いで、「変わらない」42.3%、「良くなる」(「良くなる」と「やや良くなる」の合計) 12.8%の順となった(図表 3)。D.I.は▲32.0と前回調査から 5.6ポイント悪化した。D.I.を年代別にみると、10代を除く全ての年代でマイナスとなっており、年代が上がるほど先行きに対しての見方が厳しくなっている(図表 4)。

(3) 将来の不安要素

将来の不安要素については、前回調査同様「物価上昇」が 64.3%と最も多く、以下、「収入面」(64.2%)、「税金・社会保障の負担増」(58.2%)、「医療・介護費の負担増」(57.7%)、「年金問題」(56.3%)の順となっている(図表 5-1)。前回調査と比較して「収入面」が 12.2ポイント、「税金・社会保障の負担増」が 6.2ポイント

上昇した（図表 5-2）。年代別では 40 代、70 代以上で「物価上昇」、20 代、30 代、50 代で「収入面」、60 代で「医療・介護費の負担増」が最多となった（図表 5-1）。

（4）収入

1 年前と比較した収入は「変わらない」が 42.7%と最も多く、次いで「減った」（「減った」と「やや減った」の合計）35.3%、「増えた」（「増えた」と「やや増えた」の合計）22.0%の順となった（図表 6）。D.I.は▲13.3 と前回調査から 6.9 ポイント上昇し、マイナス幅が縮小した。

また、**今後の収入の増減**については「変わらない」が 49.3%と最も多く、次いで「減る」（「減る」と「やや減る」の合計）35.5%、「増える」（「増える」と「やや増える」の合計）15.2%となり、D.I.は▲20.3 となった（図表 8）。

県内でも賃上げを実施する企業が増えており、年代別の D.I.をみると 20 代、30 代は「1 年前と比較した収入」「今後の収入」いずれもプラスとなった一方で、50 代以上ではマイナス幅が大きく、収入に対する不安が大きいことがうかがえる（図表 7、9）。

（5）支出

1 年前と比較した支出は「増えた」（「増えた」と「やや増えた」の合計）が 72.0%と最も多く、次いで「変わらない」18.3%、「減った」（「減った」と「やや減った」の合計）9.7%が続いた（図表 10）。D.I.は 62.3 と前回調査から 16.7 ポイント上昇した。食料品や日用品など様々な商品やサービス価格の値上げにより、支出が増加していることがうかがえる。年代別にみても 10 代を除く全ての年代で大幅なプラスとなっている（図表 11）。

また、**今後の支出の増減**についても「増える」（「増える」と「やや増える」の合計）が 71.7%と最も多く、次いで「変わらない」20.0%、「減る」（「減る」と「やや減る」の合計）8.3%の順となった（図表 12）。D.I.は 63.4 となり、各種商品・サービス価格の値上げの波が収まらない中、家計は今後さらなる支出増加を懸念している。年代別にみても 10 代を除く全ての年代で大幅なプラスとなった（図表 13）。

5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類へと移行し、コロナ後の社会経済活動の正常化に向けた動きが加速している。そうした中、県内で

は賃上げを実施する企業が増えてきているものの、身近な商品・サービス価格の上昇幅が賃金の上昇幅を大きく上回ることで、暮らし向きが悪化し消費マインド改善にも影を落としている。また先行きについても、物価上昇が続く中で、収入面に不安を感じる人が増えていることに加え、政府の少子化対策、防衛費増額の財源として各種税金、社会保障関連負担増が議論される見込みで、将来への不安をぬぐえないでいる。

県内景況はコロナから持ち直しの動きが続いているが、先行きに明るい見通しが持てない中では、そうした状況に水を差しかねない。経済回復を確実にし、持続性のあるものにするためにも、将来不安軽減に向けた施策が求められている。

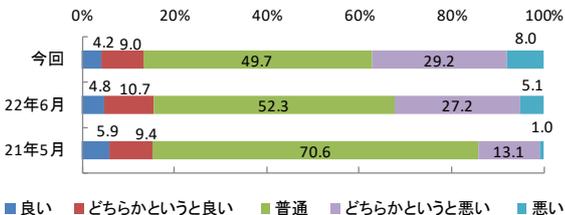
以上

【本件に関するお問い合わせ】 ㈱九州経済研究所（TEL 099-225-7491）

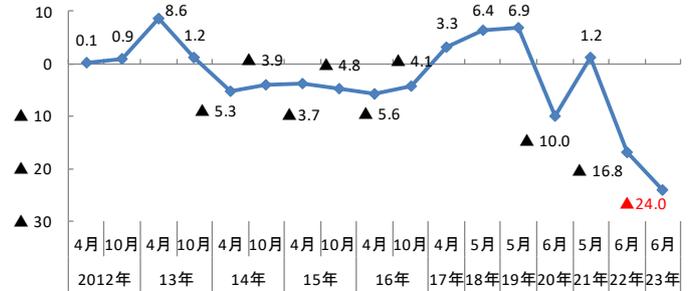
図表1 現在の暮らし向き (単位: %)

項目	21年5月	22年6月	今回
良い	5.9	4.8	4.2
どちらかというが良い	9.4	10.7	9.0
普通	70.6	52.3	49.7
どちらかというが悪い	13.1	27.2	29.2
悪い	1.0	5.1	8.0
D. I.	1.2	▲ 16.8	▲ 24.0

上記をグラフ化



現在の暮らし向きD.I.の推移



図表2 現在の暮らし向きD. I. (男女別・年代別)

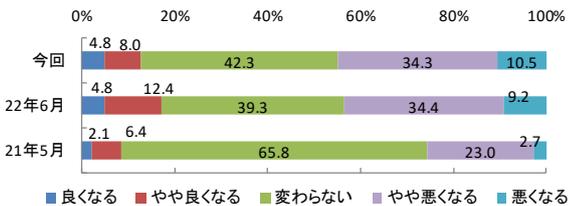
年代	21年5月	22年6月	今回
全体	1.2	▲ 16.8	▲ 24.0
男性	4.1	▲ 19.8	▲ 28.0
女性	▲ 0.7	▲ 14.1	▲ 20.8
10代	22.2	-	50.0
20代	17.9	33.4	4.7
30代	1.5	6.8	1.0
40代	▲ 1.3	▲ 17.1	▲ 33.9
50代	▲ 10.4	▲ 19.7	▲ 33.7
60代	1.1	▲ 20.0	▲ 23.8
70代以上	▲ 4.0	▲ 31.5	▲ 34.2

注) 16年までは年2回調査実施、17年以降は年1回調査に変更。図表13まで同じ

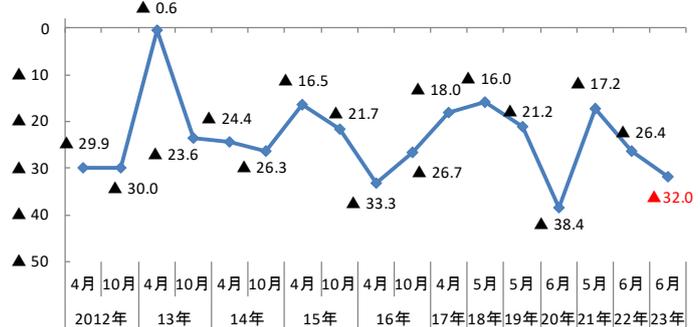
図表3 今後の暮らし向き (単位: %)

項目	21年5月	22年6月	今回
良くなる	2.1	4.8	4.8
やや良くなる	6.4	12.4	8.0
変わらない	65.8	39.3	42.3
やや悪くなる	23.0	34.4	34.3
悪くなる	2.7	9.2	10.5
D. I.	▲ 17.2	▲ 26.4	▲ 32.0

上記をグラフ化



今後の暮らし向きD.I.の推移

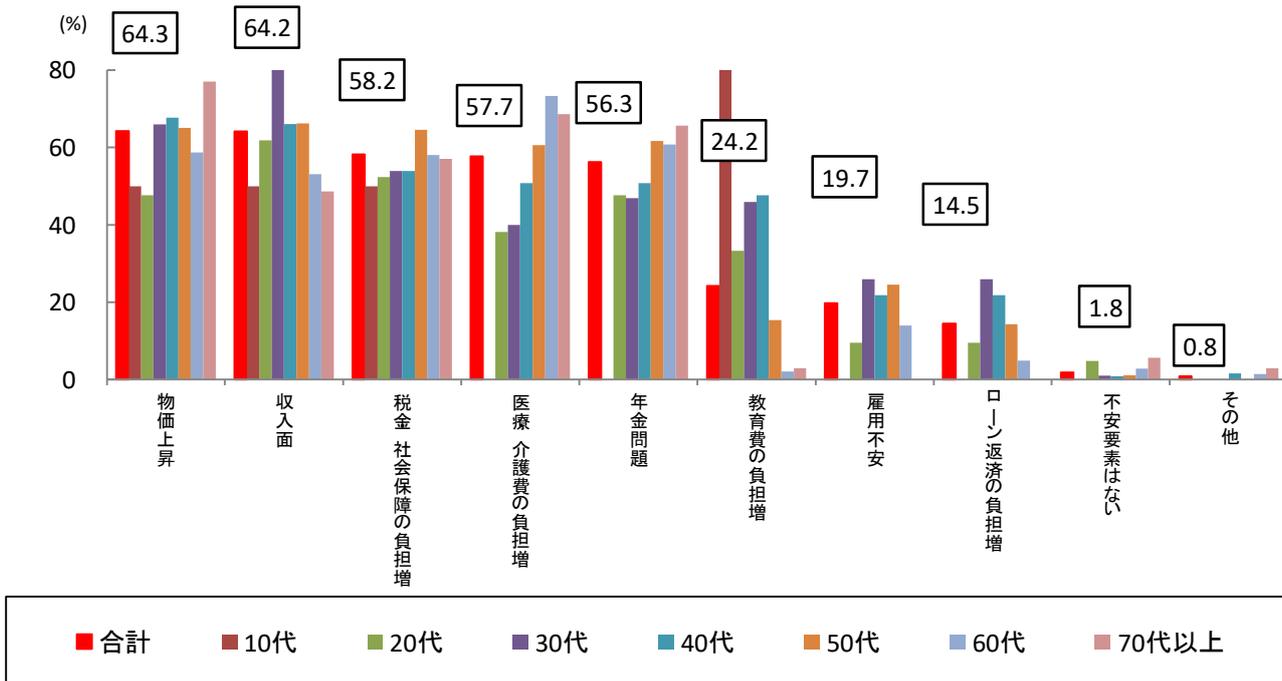


図表4 今後の暮らし向きD.I. (年代別)

年代	21年5月	22年6月	今回
全体	▲ 17.2	▲ 26.4	▲ 32.0
10代	22.2	-	0.0
20代	▲ 0.7	40.1	▲ 9.5
30代	▲ 10.4	▲ 5.1	▲ 11.0
40代	▲ 22.9	▲ 17.2	▲ 30.7
50代	▲ 29.6	▲ 28.0	▲ 36.7
60代	▲ 15.5	▲ 38.9	▲ 42.7
70代以上	▲ 29.1	▲ 46.2	▲ 45.6

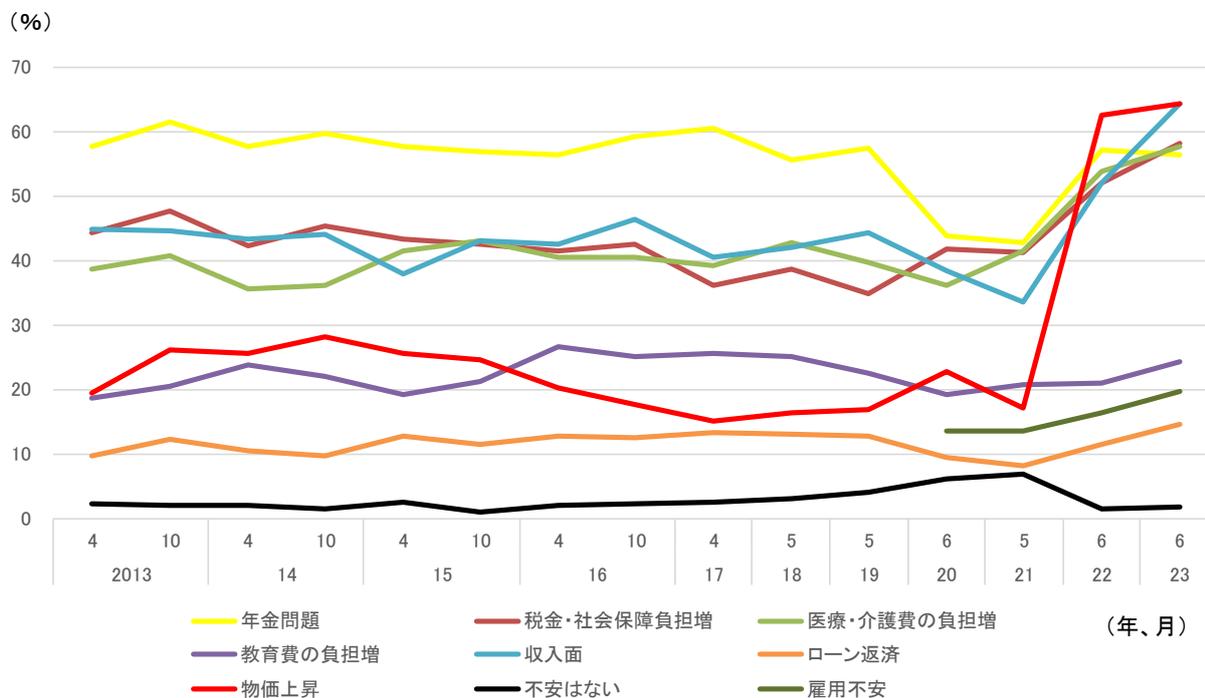
注) 図表によっては四捨五入の関係上、合計が100にならない場合がある。

図表5-1 将来の不安要素



注) 複数回答、数値は全体

図表5-2 不安要素の推移

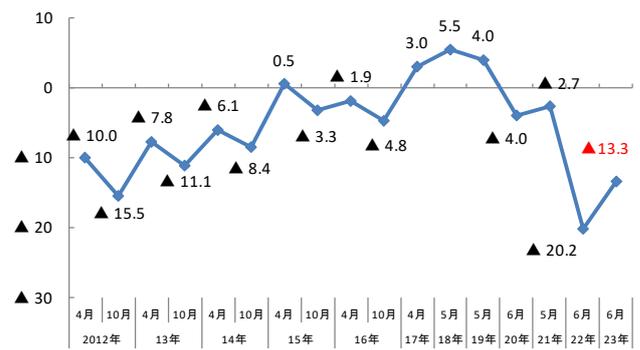


注)「雇用不安」は2020年調査から追加

図表6 収入(1年前比) (単位:%)

項目	21年5月	22年6月	今回
増えた	3.6	3.2	5.3
やや増えた	12.7	13.1	16.7
変わらない	64.7	47.2	42.7
やや減った	13.6	21.7	24.0
減った	5.4	14.8	11.3
D. I.	▲ 2.7	▲ 20.2	▲ 13.3

収入D.I.の推移



図表7 収入D. I. (年代別)

年代	21年5月	22年6月	今回
全体	▲ 2.7	▲ 20.2	▲ 13.3
10代	55.5	-	▲ 100.0
20代	18.6	46.6	28.6
30代	0.0	▲ 5.1	8.0
40代	2.4	▲ 6.1	0.1
50代	▲ 17.9	▲ 14.2	▲ 14.9
60代	▲ 15.4	▲ 47.1	▲ 33.6
70代以上	▲ 24.5	▲ 33.3	▲ 51.4

図表8 今後の収入 (単位:%)

項目	今回
増える	3.5
やや増える	11.7
変わらない	49.3
やや減る	23.2
減る	12.3
D. I.	▲ 20.3

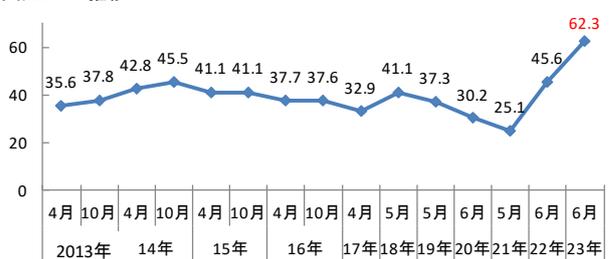
図表9 今後の収入D. I. (年代別)

年代	今回
全体	▲ 20.3
10代	▲ 100.0
20代	14.2
30代	4.0
40代	▲ 2.5
50代	▲ 25.2
60代	▲ 42.0
70代以上	▲ 57.1

図表10 支出(1年前比) (単位:%)

項目	21年5月	22年6月	今回
増えた	6.7	20.7	36.2
やや増えた	31.6	36.9	35.8
変わらない	48.5	30.4	18.3
やや減った	11.2	8.6	6.5
減った	2.0	3.4	3.2
D. I.	25.1	45.6	62.3

支出D.I.の推移



図表11 支出D. I. (年代別)

年代	21年5月	22年6月	今回
全体	25.1	45.6	62.3
10代	▲ 33.3	-	0.0
20代	26.0	59.9	57.1
30代	36.1	57.6	72.0
40代	44.3	51.5	75.0
50代	20.7	43.9	53.7
60代	▲ 2.3	34.5	54.6
70代以上	2.0	55.5	71.4

図表12 今後の支出 (単位:%)

項目	今回
増える	36.2
やや増える	35.5
変わらない	20.0
やや減る	5.8
減る	2.5
D. I.	63.4

図表13 今後の支出D. I. (年代別)

年代	今回
全体	63.4
10代	0.0
20代	57.1
30代	76.0
40代	80.7
50代	51.4
60代	56.0
70代以上	62.9